

令和元年度 第1回福井市行政改革推進委員会 会議結果

- 1 開催日時 令和元年5月30日(木) 10:00~12:00
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室(A)
- 3 出席者
 - (1) 委員 内山秀樹 委員長、田村洋子 副委員長、井上武史 委員、奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、齋藤万世 委員、辻武志 委員、富田早苗 委員 (澁谷政子 委員は欠席)
 - (2) 事務局 総合政策課、財政課
- 4 会議次第
 - 1 開会(市民憲章唱和)
 - 2 あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 平成30年度 第2回財政健全化専門部会の会議結果 について(報告)
 - (2) 「福井市行財政改革指針(平成29~令和3年度)」平成30年度取組結果について(報告)
 - (3) 令和元年度 外部点検対象事業の選定について
 - 4 その他
令和元年度 行政改革推進委員会開催予定
 - 5 閉会
- 5 議事の概要

委員長	<p>(1) 平成30年度 第2回財政健全化専門部会の会議結果 について(報告)</p> <p>専門部会とは、本委員会の部会として設けられているものであり、行革委員の4名と行財政の専門家の2名の6名で構成している。前回の専門部会は3月27日に開催しており、予算と決算時期の年2回開催する予定となっている。</p> <p>専門部会で出た意見をかいつまんで申し上げると、平成31年度予算については、委員から「6億円の増収を見込んでいるが、景気の下方向修正等により税収が下がった場合に、柔軟に対応できる構造にしておかないと赤字に転落してしまう」という意見があった。ぎりぎりでの予算ではだめということであった。</p> <p>これに対する事務局の回答としては、「市の努力として市税の収納率が上昇しており、今後もより一層努力していく」というものであった。</p> <p>また、財政再建計画に掲げる6つの取組のうち、人件費の部分で「国体終了に伴う人員減少を除いた通常ベースでどれくらい削減するのか」との質問があった。</p> <p>回答としては、実配置では47人減となり、国体終了による減と中核市移行に伴う増員を除くと、純減は40人ということであった。</p> <p>また、市民に身近な除雪費のことで、「除雪費はどのように組み立てられているのか」という質問があった。今年と一昨年では大きく異なり、今年には雪が無かったにもかかわらず4億円の予算と支出があった。市民感情として、果たしてそんなに必要なのかという質問であった。</p>
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>これに対しては、「委託契約により業者の待機や機材リースなどが発生することから、雪が降らなくても、必要な固定経費として必要である」との回答があった。</p> <p>また、「27施設のうち、廃止が決まっている施設については、廃止に向けたロードマップが定めてあるのか」という質問について、「施設特性や利用者特性があることもあり、現在詰めている状況である」との回答があった。それに関連して、「施設に関するアンケートは市民全体を対象としているので、不要とする意見が多くなる。単に数の論理で押し切るのは控えていただきたい」という委員からの意見があった。それに対しての事務局からは、「施設利用者のアンケートも実施している」ということであった。</p> <p>全体のまとめとしては、市は努力しているということの問題ないだろうとのことであった。もちろん一気に赤字が黒字に好転するわけではなく、積み残しもあることから、課題が解決するわけではないが、財政健全化計画の進捗取組としては、計画通りされているということであった。専門部会からの意見として、市民生活に密着した廃止対象の施設については、慎重に関係者の意見を聞いて進めて欲しいということであった。</p> <p>何かご質問があれば、お願いします。</p>
委員	<p>予算の市税収入の部分で、ベースとなる市の人口が変わらないのであれば、収納率が上がれば収入増となるのは理解できるが、人口減少や高齢者の増加による労働人口の減少となれば、市税収入は減ると思う。この点を考慮しても収納率を上げて収入増を図るということなのか。</p>
事務局	<p>中長期的には人口減少の中で、そもそものパイが減ってしまうと市税収入額も減ることが想定されるが、財政再建計画は5カ年間という限定された期間の計画である。計画期間内の目標として、現年分の収納率をしっかりと確保して財政健全化に充てていくことが大事であるという趣旨であり、ご理解をお願いしたい。</p>
委員長	<p>(2)「福井市行財政改革指針（平成29～令和3年度）」平成30年度取組結果について(報告)</p>
事務局	<p>事務局から説明をお願いします。</p>
委員長	<p>(資料に基づき説明)</p>
事務局	<p>ふるさと納税について、今般、総務省から通知があったと思うが、福井市の制度を見直す必要性や影響はあるのか。</p>
事務局	<p>返礼品等の問題があったと思うが、本市では、国の考え方に基づいて実施をしているので、影響は無い。返礼品のメニューを広げるなどの努力をしており、その結果、目標を大きく達成した状況であり、令和3年度の最終目標値を上方修正したところである。</p>

委員	<p>ふるさと納税で、件数や金額の目標を上げるのは、前向きで良いと思う。しかし、平成30年度は雪が無かったものの、時間的なズレによる寄附（29年度の大雪災害に対する支援寄附）があったと思う。今後このようなことが起こらないとすると、今回目標を上方修正することが果たして大丈夫なのかと心配に思う。福井市の最近のふるさと納税の傾向としては好調ということか。</p>
事務局	<p>この1年では、大きく伸びている状況である。確かに微妙な目標値かもしれないが、本市としてはこの目標の達成に向けて努力をしていきたい。</p>
委員	<p>下水道会計のところで、融雪への使用が少なかったために、下水道会計が悪化しているというのは、市全体の話なのか。また、市として除雪や融雪にかかる費用も圧縮できているのか。</p>
事務局	<p>平成29年度は大雪であったことから、融雪や除雪に多くの費用がかかった。一方、平成30年度は極端に少なかったことから、融雪に要する費用も少なくて済んだ。ただし、除雪経費については、除雪車を借り上げるなどの契約などの固定経費がある。積雪に備えて除雪体制を整える必要があり、リース代や待機費用などを見込んでいる。</p>
委員	<p>ふるさと納税の部分で、平成30年度の経費は3,600万円となっているが、最終年度の目標の1億5000万円について、経費と収益の割合はどのくらいを見込んでいるのか。</p>
事務局	<p>平成30年度においては、ふるさと納税総額に対し、約3割が返礼品等にかかる経費であった。そのため、計画最終年度の令和3年度においても、同様の割合の経費を見込んでいる。この経費については、返礼品だけでなく、広報などの費用も含めたものである。広報については、国から返礼品を強くPRするような手法は控えるようにとの通知もあるため、これに従い適切に実施していく。</p> <p>なお、令和3年度の1億5000万円に対する市の利益は、経費3割を除いた額の1億500万円を見込んでいる。</p>
委員	<p>財政健全化と関連して、市税の収納率の向上の件で、結果的には「晴れ」としているが、財政健全化専門部会の資料を見ると、市税収納率99.2%で平成31年度の当初予算を組んでいる。ということはこれより収納率が下がってしまうと、厳しくなると思う。収納率の向上自体は必要だが、それを前提とした予算編成をすると返って変な感じがするが、その辺はどうか。</p>
事務局	<p>予算は、収入の見込み額に対して、支出を組むので、基本、市税の収納率によらずして、収入として入るものとしての計上となる。</p>
委員	<p>それだと、年度途中で補正予算を組むとすると、単純に市税収納率が100%を超えてしまうことにならないか。</p>

事務局	補正財源としては、市税の補完財源として繰越金などを見込んでいる。市税については、伸びの話もあったが、財政再建計画においては、税の収入自体は1%程度伸びるものとして想定をしている。
委員	十分に安全な形で（税収の伸びを）想定しているということか。
事務局	そうである。
委員	行革指針の7番「生活困窮者の相談・支援に対する総合窓口の設置」の取組みで、「自立サポートセンターよりそい」での相談件数が大幅に増加したということで「晴れ」の評価となっているが、これは、就労まで繋げるという取組みということか。
事務局	そうである。
委員	幸福度ナンバー1の福井においては、真逆のこととを感じるが。
事務局	ハローワークにも一緒に来ていただいて、同じ窓口で一緒にやっという体制をとっており、就労に繋げていきたいということから、このような相談対応を一昨年度から実施している。
委員	市民の立場からすると社会福祉協議会などを思い浮かべるが、この相談窓口については、民生委員などに周知をしているのか。
事務局	社会福祉協議会との連絡体制の整備などにより、全体として生活困窮されている方々を支えていかなければならない。相談窓口が複雑になる課題があったことから、「よりそい」という窓口を設置し、ワンストップで支援するということでスタートした事業である。そのため、必要に応じて社会福祉協議会と連絡をとって連携するなどの取組みを進めている。 民生委員に対して、「よりそい」が設置された時から周知を行っている。
委員	民生委員など関わりが多い方に十分な支援というか、力を入れていただきたいと思う。
委員	今の「よりそい」の窓口は、どこに設置しているのか。社会福祉協議会か、それとも市役所か。
事務局	福井市役所内の生活支援課のところに設置している。
委員	アオッサの中にも高齢者用のハローワークみたいな相談窓口がある。相談窓口が多いというか、私がこれを聞いたときに、サポステなどの相談窓口が社会福祉協議会にあるのでは、と思った。相談する側としては、どこに行けばいいのかわかりにくい感

事務局	<p>じがする。</p> <p>4月から地域福祉課の名称が変更し生活支援課となったが、いろいろな支援をしていく中で、生活保護の受給までいかななくても、「よりそい」を活用して就労に繋げるという流れをくんでいる。</p>
委員	<p>それが市民に周知されていないと思う。今の話では、生活困難者の相談窓口が市役所ということであり、ハローワークは一般の方が利用するが、シニアの相談窓口はアオッサの中にある。また、若い人では、ヤングハローワークが商工会議所内にある。また、ちょっと引きこもっていて40～50歳の人も世間に出そうよというサポステは福井県社会福祉センター内にある。</p> <p>このように、いろんな窓口が点在していて、お互いに相談者を誘導できているならいいのだが、私ならどこに行っているのか。</p>
委員長	<p>市民から見て、いろんな窓口があって、どんどん窓口が増えていっているような感じがある。そのあたりの情報をしっかり市民に分かるように整理した上で、民生委員や高齢者などのいろんな方に情報提供して欲しいということだと思う。</p>
事務局	<p>今ほどの情報提供のことで、どこへ行っていいのかわからない、又はたらい回しにされるようなことが無いようにしっかりと広報していくことが重要と思う。</p> <p>生活困窮者に関しては、自立支援センター「よりそい」を作ったのはそういうことを無くそうということであり、とにかく相談に来たら一旦受けて、つなぐ、また必要によっては一緒に同行する。このようなことをやろうということで、先進都市の研究も行ってきた。</p> <p>全ての福祉の窓口が1本になれば分かりやすいが、様々な関係団体や行政などがあるため難しい。ただ、どこに相談したら良いかという情報発信は大事な問題だと思っているので、しっかりと周知に努めていきたい。</p>
委員	<p>私たち民生委員は、地域で生活困窮の方から相談を受けたら、市の生活支援課につなぐということをおこなっており、そこからまた様々なところにつないでいくことをしている。民生委員の方は生活困窮の相談窓口を把握しており、相談者を放っておくことはないと思う。</p>
委員	<p>オープンデータの取組について、公開をしっかりと増やしていこうという目標数値になっている。利用促進については、「市民からニーズがあるデータについて」と記載があるので、対応しているような仕組みがあれば、説明して欲しい。</p>
事務局	<p>この取組は、民間が使えるデータ数の増加を目的としており、実際、どんな活用のされ方をしているのか、データ検証的なものは数字を持ちあわせていない。</p> <p>ただ、いろんな企画的なものとか広報についても広報効果はどうなのかとか、他の取組についても、同じよう言えることなので、そういったことは今後、意識しながら成果が見えるようにしていきたい。</p>

委員長	<p>鯖江市はかなりオープンデータが進んでいる。市民が使いやすいようにアプリ化している。また、オープンデータを活用できる人材育成までやっている。先日のNHKのニュースでも先進都市として放送されており、全国でも注目されている。オープンにするだけでは、一般の市民は使えないので、有意義な利用ができるような組織を作ってあげないといけないと思う。</p>
事務局	<p>鯖江市の例があったが、ふくい嶺北連携中枢都市圏もあるため、良い部分については、切磋琢磨しつつ、鯖江市からも学んでいきたい。担当部署に伝えておく。</p>
委員長	<p>他に質問も無いようなので、これで質疑を終了する。平成30年度 of 取組結果については報告いただいたとおりで、意見については、事務局で整理した上でフィードバックしていただきたい。</p>
<p>(3) 令和元年度 外部点検対象事業の選定について</p>	
委員長	<p>外部点検の事業選定については、ひとり4票を用いて、確認したい又は点検したいという事業に投票していただき、決めていきたいと思う。まず事務局から事業概要の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
委員長	<p>投票する前に、委員の方から確認したい点があれば、質問をお願いします。</p>
委員	<p>17番の「商店街活性化支援事業」について、中心市街地に関する事業は、数年前に点検している。このような事業の趣旨はわかるが、20年くらい継続して実施されている。ここ1、2年の話ではなく、20年でどれくらい変わってきたのかという成果を一緒に出していただけると、理解できるようになると思う。</p>
事務局	<p>ここで挙げているものは、総合計画実施計画を策定して、そこでそれぞれの分野で掲げたものを毎年点検していくということで、事業を羅列して提示している。 ご意見のとおり、そういったことも含めて事業を選んでいただければ、所管課の方から回答をさせていただく。</p>
委員長	<p>「商店街活性化支援事業」だけが、中心市街地活性化であるのに、今回の候補にあがっているのが異質に感じる。</p>
事務局	<p>違和感もあるが、このような分類でくくっている。</p>
委員長	<p>あえてこの事業を選んで、成果を確認するという方法もあるし、数年前に中心市街地関係は点検したので、今回は選定しないという考えもある。</p>

委員長	観光については、誘客という観点でナンバー3 1. 3 2. 3 3の事業はまとめても良い。個別に見ても、細かいテクニカルな部分では話題があるであろう。しかし、予算額も1億円近くになる観光誘客に関するのと、それから観光資源みがきとして一乗谷や越前海岸、フェニックスまつりを束ねることも可能かなと。
事務局	観光の部分については、福井市の観光事業を圏域にひろげて取り組もうという動きもある。連携中枢都市圏事業として誘客していこうという事業内容になっている。
委員長	誘客と都市圏魅力向上ということで切り口が2つ考えられる。 選定するのは一つずつということか。分類上、バランスが取れたほうが良いだろう。
事務局	特にこだわりはない。分類は参考程度ということで提示している。
委員	実際、評価のときでよいが、財政再建計画の中で事業費見直しについて、それぞれの事業で見直し額がどのくらい出たのか、数字で出してほしい。
事務局	点検対象に絞ると、外部点検までの間にはお示しできるのではないかと思う。
委員	29年度に点検した中心市街地活性化事業も、今回の事業も同じ商工振興課。
委員長	ナンバー17の事業だけが今回扱われていることに違和感を感じるが、今回は、商工というよりは工業系が多い。あとは 労働系のワークライフバランスなど。観光は事業を束ねてみたいと思う。31～33の事業は、誘客の対象が違うだけなので、一緒に説明していただきたい。20、26、27、33の事業は、観光資源としての魅力化というとらえ方。最終的には担当課の対応のしやすさもあるが、みなさんのご希望を聞きたい。 農林水産関係にかかわっている委員は少ないと思うが、3の事業については、奥村委員も覚えているとおり、金福スイカのことなど、園芸について福井市はどう捉えるべきかということで議論になった。その確認として、点検対象に選択することに意味はある。
副委員長	金福スイカは、点検で「やめて」との結論であったが、事業を継続した経緯もある。
委員	一般にはあまり販売されていない。東京とかで食べているところを見てみたい。広報はしていないのか。
委員長	売り込みはしている。金福・銀福スイカということで、香港などで販売している。
委員	「いちほまれ」と同じで、あんまり広げると値崩れしてしまう。
委員	今年時代行列が開催されなかった。来年もおそらくないだろうが、観光分野でどのような影響があったかということは、外部点検の中で、示されることはあるのか。

事務局	<p>本日の委員会で、外部点検の対象に選ばれば、担当課の方に質問していただくことで議論になる。</p>
委員長	<p>大きな事業をやめた場合の影響を検証したうえで、どうあるべきかを考えることは大事かと思う。</p>
委員	<p>観光業界は、春まつりを中心に事業を組み、「まちあるき」などをして集客していたので、影響は気になる。大きく集客が減ったのであれば、今度の税収を考えると実施した方が、今後の集客・収入においては価値があると思う。</p>
事務局	<p>点検の対象になれば、提案の過程で、担当課の意見もお話しさせていただきたい。</p>
委員長	<p>選ばれた事業については、どういった説明をしてほしいかを伝えておくと、有意義な議論ができると思う。</p> <p>他にご意見なければ投票に移りたいと思う。この事業とこの事業は一緒に点検したいといったご意見は、候補が出そろってから考えたい。</p> <p>(投票)</p>
委員長	<p>まず、農林水産業。</p> <p>多いのが、有害鳥獣、園芸関係。それから多面的機能維持は、知らない人にとってはちょっとわかりにくい事業かなと思う。</p> <p>園芸関係は、たくさんあるので一つに束ねられる。有害鳥獣は3票も入っている。6次産業化に票を入れている人もいるけれど。</p> <p>続いて、商店街活性化事業。それから、一乗谷、まちなか。</p>
委員	<p>フェニックスまつりなど観光に関するものは全部含めていいのでは。</p>
委員長	<p>あと繊維関係。それからマーケット開発、起業家支援。</p> <p>担い手では、U・Iターン就職。一般的な就職支援を含めてしまうと、ぼやけてしまうと思う。林業水産業U・Iターン促進ということで、林業水産業にスポットを当てる事業もあるがどうするか。</p> <p>観光では、先ほど出たフェニックスまつり・春まつりは、きちんと検証すべき。</p> <p>あとは、誘客ということで、国内観光誘客とインバウンドと一緒にできると思う。それから観光資源を磨く事業がいくつかある。</p> <p>まとめていくと、誘客は、「国内観光誘客」と「インバウンド推進」をひとつで。教育旅行はちょっと特殊な事業なので含めないでおく。</p> <p>担い手の分野はどうするか。</p> <p>U・Iターン就職促進には、林業水産業は含まれていないのか。</p> <p>林業水産業の担い手を確保するためのU・Iターンを特化させている。</p>

委員	農業とかは、また別にあるのか？
事務局	農政企画課が担当している。
委員	個人的には、一般的なU・Iターン就職促進のほうが関心がある。
委員	私も同様である。
委員長	<p>それでは、商工関係のU・Iターンという観点から、「U・Iターン就職促進」を選ぶということにしたい。</p> <p>園芸関係は、一つにする。園芸センターがあって、がんばっていることもある。「施設園芸普及拡大」と「園芸作物ブランド化」、「園芸総合振興」の3つである。</p> <p>「有害鳥獣対策」も選ぶ。</p> <p>多面的機能維持はどうか。</p>
委員	まだ180しか取組組織がないということなので、選定事業に余裕があれば。
委員長	商店街活性化支援は、商店街の外灯設備など補助事業であって、施策を展開するものではない。毎年あてにされる事業に陥ってはいないか否かという観点はある。対象となる商店街は、決まっているのか。
事務局	基本的には、改修の必要が生じたとか、照明の取替えとか…
委員長	3つほど商店街があがっていたが。
事務局	30年度実績である。
委員長	どれくらい対象となる商店街があるのかどうか。「商店街活性化支援」も選ぶことにする。
委員	私は「商店街活性化支援」に票を入れたが、商店街では活性化支援を受けてもやることがない、イベントができない、地元でイベントの担い手がいないし、アイデアもないし、どこかに委託して丸投げとか、でも予算消化のためにそういうお金ももらっているということを聞いた事があったからである。しかし、例えば電球を替えるだとか、現実に必要なことなのであれば、取り上げなくてもいいのではないかと思う。ただ、長い目でみて、どういうふうに支援が生かされてきたのかには関心がある。
委員長	商店街の補助の支援のあり方とか、ちょっと厳しめに点検するというところでよいか。
委員	はい。

委員	最近、繊維産業が忘れられている気がする。
委員長	「マーケット開発支援」の中で、「繊維産業稼ぐ力向上」も含めて話をしてもらおうことにする。
委員	<p>以前のふくいまつりと今のふくいまつりは全然違う。本当は静岡の浜松まつりのように、まつりだけで地域が盛り上がるようなものでなければならない。福井のまつりは、商工会議所のまつりになってしまっている、あまり市民は関係していない。この事業だけ両方のグループで点検し意見を求めてはどうか？</p> <p>4千万円近くのお金を、市が出している割に、市民には浸透していない。実行委員の中にも商工会議所の人が多く、地域の方はあまり入っていない。</p> <p>長年、実行委員をしているが、委員会の日に一度行くだけで終わってしまう。両方のグループで説明を受けるようにしたらどうか。</p>
委員	一般市民が、時代衣装を着て参加するっていうのではないと…。
委員	商工会議所青年部の方も青年会議所の方もいる。1回だけだと、それぞれの委員の発言機会が少なくなってしまう。
事務局	やり方は担当課などに確認しないといけない。
委員長	<p>それでは、予備として、もう一つ観光資源を磨く事業を取り上げたい。具体的には、「一乗谷ブランドイメージ向上」「越前海岸体験・体感観光推進」「五感に響く体験・交流型観光推進」、それから「周遊滞在型広域観光推進」。観光資源の魅力アップとして、どうするかを考えていきたい。足羽山も議論するために、「まちなか滞在拠点化」も含めるとよい。</p> <p>先ほどのフェニックスまつりが、どちらかで片方ということになれば、Bグループの点検事業にするのがよい。</p>
委員	片方のグループで点検することになれば、もう一方のグループは書面で意見を言えるようにできるとよい。
事務局	ちょうど、点検の間にも実際にフェニックスまつりがある。対象所属の負担も大きいかないという部分もあり、もう一方のグループは書面で提案するという形式で進めたい。
委員長	<p>確認すると、一つ目が園芸政策、二つ目が有害鳥獣対策、三つ目が繊維産業を中心としたマーケティング、四つ目が長年取り組んでいる商店街活性化、五つ目がU・Iターンの促進、六つ目がフェニックスまつり、七つ目が観光誘客、そして八つ目が観光資源。</p> <p>みなさんの希望をもとにすると、Aグループは、園芸関係、有害鳥獣対策、U・Iターン、観光誘客。</p>

	Bグループは、繊維産業などのマーケティング、商店街の活性化、フェニックスまつり、観光資源。
委員	文書で意見を提出する場合の提出期限を、事務局で設定して欲しい。
事務局	承知した。
委員長	これで外部点検の事業選定を終了する。

(11 : 45 終了)